


さくら・にゃん・にゃん
3.22
3月22日は「さくらねこの日」

SAKURA
NEKO
RESCUED
DOG
RESCUED
CAT

いのちつないだワンニャン写真動画コンテスト入賞作品集
-2020-

 公益財団法人
どうぶつ基金

659-0004 兵庫県芦屋市奥池南町71-7 TEL:0797-57-1215 FAX:0797-25-2075
contact@doubutsukikin.or.jp www.doubutsukikin.or.jp



一人でも多くの人に知ってもらいたいので、この資料を読み終えたら他の人に渡してください。

公益財団法人 どうぶつ基金

写真で世界をいいほうに変えよう

今年で11年目を迎えるコンテスト、
これまでたくさんの作品を発表してきました。

ヒトの勝手な都合で殺処分されていたかも知れない命、
その命を救うのもまたヒト。

善悪だけでは語り切れない社会と命の姿が写し出されていました。

写真には、世界を、あなたを、
いいほうに変えるチカラがあると信じています。

公益財団法人どうぶつ基金
後援 環境省 大阪府



2012

2010



2011

2013

主催：公益財団法人どうぶつ基金

後援：環境省、大阪府

応募期間：令和2年4月1日～7月31日

インターネット投票期間：令和2年4月1日～8月31日

応募部門：1.いのちつないだワンコ

2.いのちつないだニャンコ

3.さくらねこ

4.動画部門

応募方法：どうぶつ基金ホームページの申し込みフォームからデータ添付にて応募する。

応募資格：行政からの譲渡、動物愛護団体や個人ボランティアから譲渡された犬や猫、

町で保護した犬や猫、さくらねこ（TNRを行いみみ先カットを施された猫）が対象被写体。

応募点数：一人10作品までとする。

（通常の写真応募は一人10作品、里親募集の場合は応募数を無制限とする）

（1頭に1作品で頭数には制限をつけない）

参加費用：無料

審査委員長：森田恭通（デザイナー）

特別審査員：桂文枝（落語家 文化庁芸術祭大衆芸能部門大賞受賞）

来秀則（らいひでのり、ハニー）

藤原なつみ（ハニー、はっちゃん日記）

佐上邦久（どうぶつ基金理事長）

選定方法：ホームページ上で応募作品を展示し、広く一般の方から投票とコメントによるレビューを行う。

これらの結果を参考に、審査委員会で審査員が各賞を選ぶ。

各賞：1.環境大臣賞（1名）（賞状 賞金、賞品合わせて10万円相当）

2.大阪府知事賞（1名）（賞状 賞金、賞品合わせて2万円相当）

3.理事長賞（1名）（賞状 賞金、賞品合わせて2万円相当）

4.審査員特別賞（1名）（賞状 賞金、賞品合わせて2万円相当）

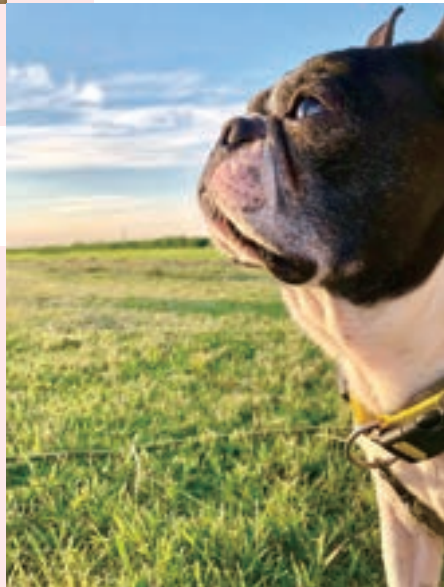
5.入選（16名）（賞状）

優秀作品の審査結果並びに発表：審査の結果は、令和2年9月下旬にウェブサイト等において発表。

2020



2019



2018

2016



2017

この写真コンテストは犬や猫と幸せに暮らす方法として、ペット業者から買うのではなく「保護された動物の里親になる」「地域猫の世話をする」といった「本当なら殺されていたかもしれない小さな命が、救われ共に生きる」ことの素晴らしさを多くの人に知ってもらうために2010年より毎年開催しています。

小さな命が救われ、共に生きる



「我が家の王様」

上野 真知子様

熊本で保護されたお母さん猫が子供を産んだのが、震災の翌日でした。余震の続くなか、あちこちにもらわれた子猫のうちの1匹が”珀”でした。最初福岡の方にもらわれ、滋賀県の我が家に来たのは1歳を過ぎてからでした。当初は緊張していましたが、4才になった今ではこんなに無防備な姿で我が家の王様になっています。





「夕暮れ時」 大矢 朋子様

散歩も終わって、さあ帰ろう。沢山遊んだね。今日も幸せだね。
東日本大震災で宮城県のご家族と別れることとなり、我が家に来た日本スピッツの空。
そして、ペットショップで衝動買いされ、飼うの大変でいらなと言われて、
10ヵ月まで部屋の中のケージに居たっきりだった、ミックス犬のジョワ。
縁あって保護犬二匹となった我が家。貴方たちが幸せでいてくれることが、私の幸せ。ありがとう。



 <https://www.youtube.com/watch?v=sSnhAXLER00>



「STOP」 SEBASTIEN LEE (リー・セバスティアン) 様

今年の初夏に一つの命が救われた瞬間を実際の場所で再現した作品です。
新しい家族と出会ったノア。飼い主さんご本人が出演。

タイトル「STOP」とは、殺処分ストップ、繁殖業者からの購入ストップ、私生活では気にもとめないことや、
助けを必要とする動物達のために足を止め、少しでも心がむいてもらえるように願いを込めた映像を制作させて頂きました。

STOP KILLING・SAVE LIVES 殺処分をストップ・命を救おう。





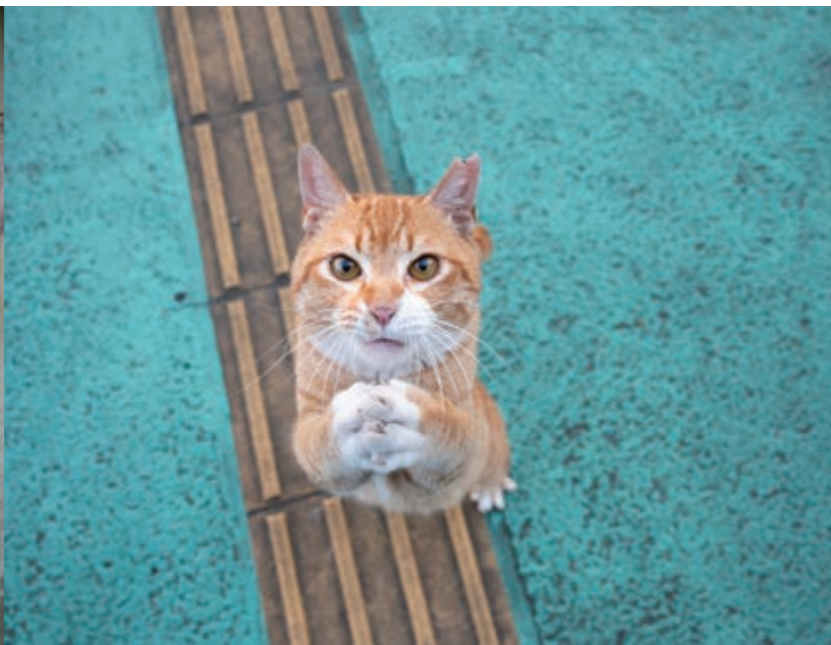
「頑張ってるからね」 中谷 栄子様

さくらねこにしてくれたお婆ちゃんはまだ居ないけど、優しいお婆ちゃんが毎日ご飯を持って来てくれます。人懐っこくて可愛いねって良く言われるよ♪お婆ちゃんの名まで頑張って生きてくから安心してね。



入 選 作 品

さくらねこ部門





「天真爛漫」

堀尾 知弘様

某お寺に住むネコ、名前を サクラ 女の子です。
この顔の通り、天真爛漫に生きてます。
カラスが寄ってこようもんなら、跳びかかり！
ボスネコがそばにいても気に入らないと、パンチ!!
お腹がすいていると、ニャーニャーないてご飯の催促。
でも食べ終わると、満面の笑顔を見せてくれます。
人間で言う、少しわがままなお嬢さんでしょうか？
これくらいわがままなら、いつまでも聞いてあげたいですね。



「レッドカーペット」

播磨 雅子様

落ち葉でフカフカになった散歩道。
優しく、あたたかく、
猫の足元を包みます。



「たくましく生きる」

西尾 由美子様

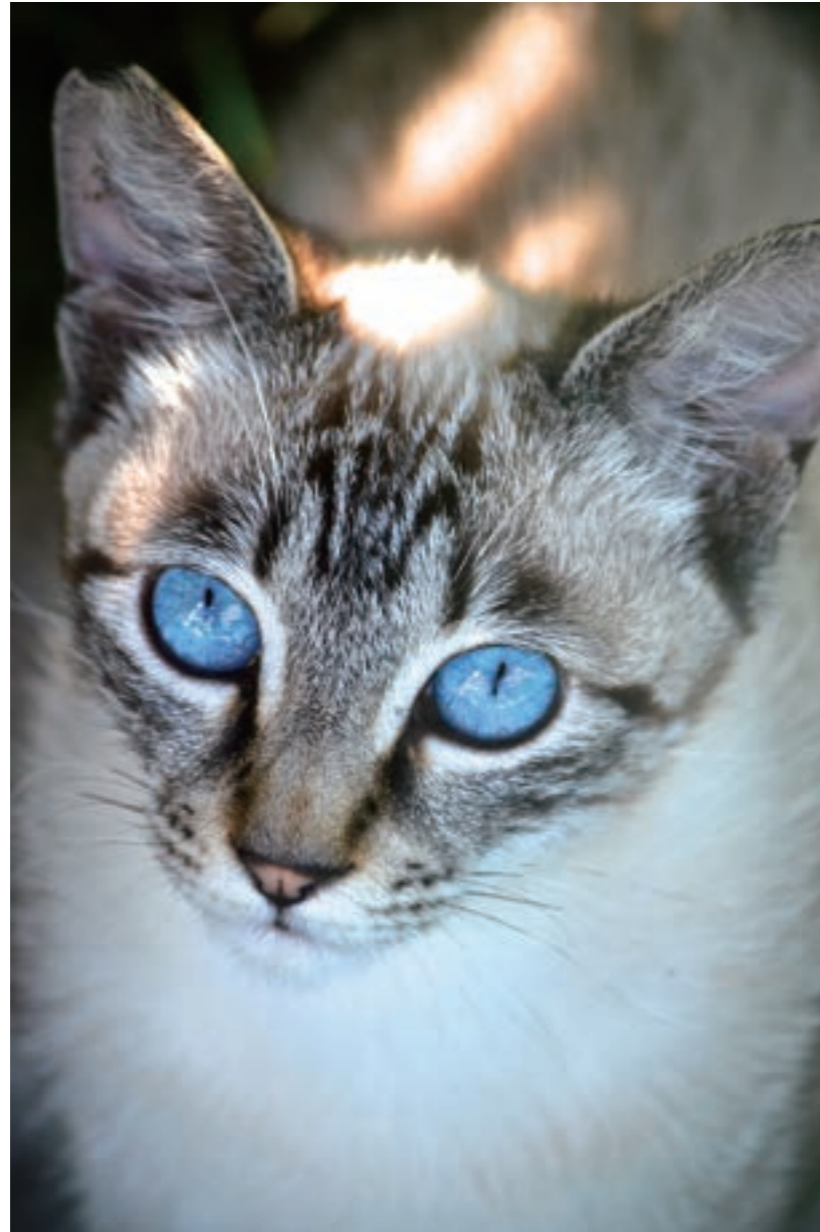
2016年 子猫の時1匹で棄てられて、ずっと岩場の陰に隠れて生活していました。
ご飯になると恐る恐る出て来るものの先住猫さんにパンチされ追いかられまた岩場の陰へ・・・
ところがこの子はここにいるよ〜とアピールするように泣くのです。
ボランティアさんは岩場の中へご飯と水を置いてあげてました。
そのうち先住猫さんの中の優しい子が寄り添うようになってくれてようやく地上に出れるようになったのです。
今では自分を虐めた先住猫さんにはパンチで仕返しするほど強い猫として育っています。



「何か??」

山本 常仙様

思いっきり遊んだ後のお手入れ。
外猫もお手入れ大変なんだぞ！
僕はブラッシングもしてもらえど気に入らないんだ！！



「学校前の子」

吉田 茂樹様

ある学校前の植え込みに、
いつも隠れるように暮らす美しい雄のさくらねこがいた。
そこから出て来たのを見たことは一度も無い。

極めて印象的なその美しい瞳は、あまりにも澄み切っていて、
もうそんなことを繰り返す必要はまるで無いかのようにいつ見ても美しい子だ。

ご近所の方々がよく餌をあげて下さっていたようだ。

ある日、いなくなった。

美しかろうが無かろうが、
まるでそんなことは最初から関係がなかったかの様に消えてしまった。

この子の生きた証しをどうしても残しておきたい。



「僕たちを捨てにやいで」

伊東 純一様

今年初めに捨てられてしまった猫です。

最近さくら猫になりました。

自分と同じ境遇の猫が増えてしまわないように祈りを捧げます。



「のんびりさくらねこ生活♪」

芝田 圭佑様

今日はとってもいい天気♪
漁師さんからお魚をもらってお腹いっぱい♪
のんびりゴロゴロ毛づくろい♪
明日もこんな日だといいにゃ～♪



「ひろがる見守りの輪」

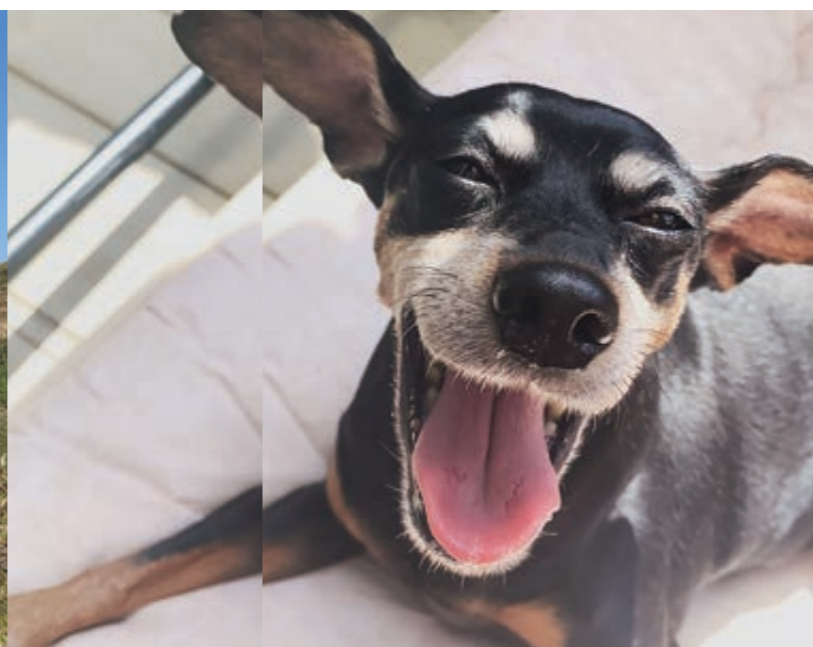
北方 有様

雨の日でも雪の日でも駆け寄ってきて鼻キスしてくれるこの猫は、
増えていく見守る人たちにもとても可愛がられています。



入 選 作 品

いのちつないだワンコ部門





「笑顔の花咲く」

NPO法人しあわせの種たち様

岡山県動物愛護センターに怪我をして収容されていました。
引き出して保護し、大手術を乗り越えて今では元気に走り回り、仲間たちと遊んでいます。
繊細で怖がりですが、とっても可愛いリノ君。
お花の飾りをつけてカメラを向けたら満面の笑みを見せてくれました。



「大きな世界へ！」

伊藤 麻紀様

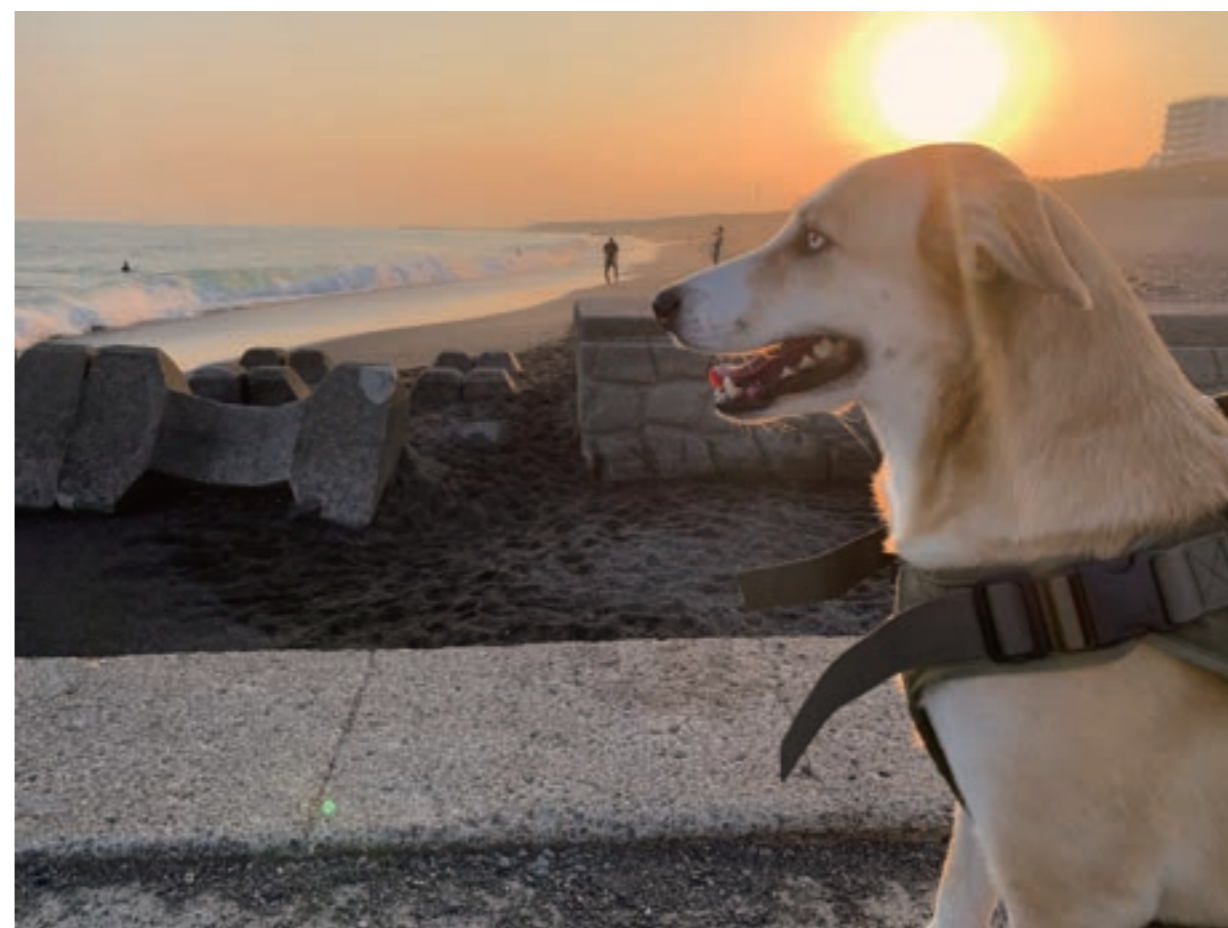
多頭飼育崩壊の家庭から引き取った子です。
一日中ケージの中で過ごし食事や排泄もケージの中でさせられていました。
初めは散歩もビクビク。オモチャも怖がっていました。
体重も標準体重の半分しかなく獣医さんにはもう標準の大きさにはなれないと言われました。
でもそんな事を心配しているのは人間だけ。
彼女は身体は小さくても心はでっかく育ってます！
ドンドン怖いものを克服して走り回ってくれるようになった彼女に
ケージからでは見れない大きな世界の景色をたくさん見せてあげたいです。
うちに来てくれてありがとう！



「菜の花とあずきとだいず。」

田村 聖子様

地元の団体から迎えたあずきと、他県のボランティアさんから迎えただいず。
お互いがお互いを支え合うように生きる姿に毎日勇気もらっています。
また春と一緒に迎えられる、幸せだねえ。



「いつもの海」

甘糟 穰二様

山産まれだけど海がだいすき。
海に行くとずーっと波を眺めています。
水は怖くて入れないけど、綺麗な湘南の海を満喫しています。

元々茨城の山に生まれて両親は未だ捕まっていないそう。
この空の向こうに両親がいると思っているかのような懐かしむ目で
いつも連れて帰るのを躊躇います。

いつか両親に会えるといいね。



「桜とポン太」

原田 奈々様

山の中に捨てられていたポン太と兄弟が、保護団体に保護されました。
保護施設に見学に行くと、ポン太と兄弟たちはお庭に出してもらいました。
兄弟たちは探検したり近寄ってきたりするのにポン太は玄関でおっとり座っていました。
穏やかで優しくさうだからこの子がいいと思い、ポン太を家族に迎えました！
小さい時はいつも不安そうな顔をしていたのに、今では色々な表情を見せてくれるようになりました。
もちろん幸せな笑顔もね♡



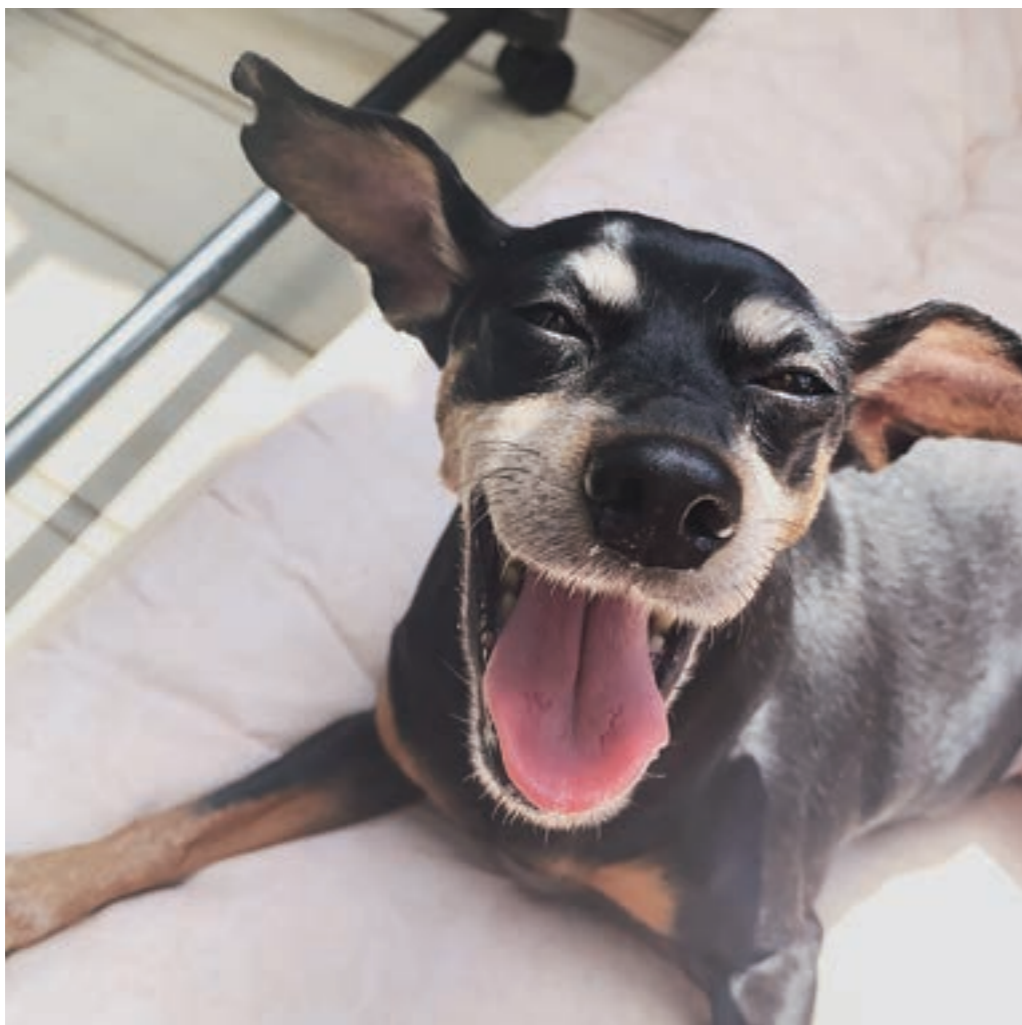
「笑顔の先に」

松田 祐美子様

リオと4度目の春を迎えました。
はじめは嘔む、吠える、威嚇する、暴れることでしか自分の感情を表現することができなかったリオが、
一日一日を共に家族として過ごすことで、たくさんの感情表現ができるようになりました。

何より楽しそうな時は思いきり自然の中を走ること。
犬らしく生きている喜びが全身から伝わってきます。

処分犬として保健所にもちこまれたのは2歳の時。きっと何もわからず恐怖しかなかったと思います。
そんな恐怖を与えるのも救えるのも人間です。



「幸せ笑顔」

本橋 久美様

先住犬が1歳の頃、新たに保護犬を迎えようと思いました。
しかし、我が家は母子家庭だったことから、なかなかご縁が繋がらず、何度も断られ諦めかけた頃に、
親子で保護犬とは何かもう一度勉強し、初めてお見合いしたのが我が家の愛犬。
ブリーダーに破棄され道端で保護されました。
当初は筋力も無く、耳も不自然に切られる等、どんな環境にいたんだろうと思う状態でしたが、
決して人間に怯えることもなく、私たち親子に懐いてくれる、とても穏やかで愛嬌たっぷりの子です。
我が家を選んでくれた団体さん、そしてルアナ。
選んでくれてありがとう。



「キキスマイル」

河野 志貴様

パットロスで悩んでいた時に新聞で緊急譲渡会の文字に惹かれ、熊本市動物愛護センターで出会いました。
ゴミ捨て場に捨てられていたそうです。
当時はアレルギーで毛も少なく、触れば噛みつく怖がりさんでしたが、
ゆっくり3年4年かけて、笑顔溢れるキキになりました。
内臓奇形や、下半身不随、横隔膜ヘルニア、何度も死にそうになりながらも、
熊本地震も一緒に避難して避難先でこの写真を撮りました。
心臓が弱ってうちに来て7年、推定10歳で亡くなりました。
キキはずっと私達家族の天使です。



入 選 作 品

いのちつないだニャンコ部門





「クリスマスの夜のプレゼント」

大西 有子様

3年前のクリスマスの夜。我が家の庭に迷い込んできた子猫。
雪の寒さの中で一人ぼっちで震えていました。
つらい思いをした分、
これからはいつも幸せがそばにありますように…
と願いをこめて「ニア」と名付けました。
我が家の宝物です！



「見つめる先に」

三浦 絵梨様

生まれてすぐに勤め先の動物病院の横に捨てられていた子です。
すくすく成長し、今では我が家のアイドルになりました。



「生後 1 か月半！登るのが大好きな曆くん」

吉田 遥様

出会いは 2020 年 3 月 24 日（火）。地元の居酒屋さんにて保護されていたねこちゃんです。

最初は地元掲載サイトで見かけ、連絡してみたところ

「首が普通の猫ちゃんより曲がっておりますが、それでもよろしければお願いいたします」

とご連絡をいただきました。

実際会ってみるとその首の曲がりか逆にチャームポイントとなり、かわいさを覚え譲渡していただくことになりました。

彼と出会うまでにたくさんの人を経由して出会ったため、非常に思い出深いねこちゃんです。

買う猫ちゃんじゃなくて、「飼う」ことの大切さを今学んでいます。



「夢の中でも一緒」

高橋 理枝様

母猫が工場内に産んでしまい保護された赤ちゃん兄妹ギャビーちゃんとカブーンくん。

二人とも毎日たくさんミルクを飲んでたくさん出してたくさん寝て、

赤ちゃんの仕事のパッチリこなしてスクスク大きくなりました。

素敵な里親さんも決まり、寝ても覚めても幸せなことばかり！



「ずっと、ずっとね。」

小林 未央様

酷い環境で繁殖を繰り返し崩壊したブリーダーから、保護団体によってレスキューされた花太。
保護時は、糞尿で毛が固まり、真菌等で皮膚に異常もあり、目を背けたいような状態だったそうです。
全てのブリーダーが劣悪だとは限りませんが、買う人がいるから、金儲け目的で繁殖させ売っている人がいます。
花太、うちの子になってくれてありがとう。これからは私たち家族と一緒にいようね。ずっと、ずっとね。
レスキューして下さった保護団体には感謝しかありません。
買わずに飼いましょう！そのことで救える命がたくさんあります。



「我が家のいたずらっ子」

辻村 亜美様

元野良猫だった先住猫ちゃんとお別れから5年が経ち、
また猫ちゃんを飼おうと家族全員がやっと前向きになることができました。
今度の猫ちゃんも保護猫にすると決めていました。
1匹でも幸せな猫ちゃんになってほしいから。
色々な保護猫の掲示板をまわり、ある保護猫カフェでたまたま見つけた子が、この子です。
1枚だけの写真でしたが、この子の他にいない！そう感じました。
人見知りでなかなか心を開いてくれない子でしたが、
今では隙があればちょっかいをかけてくる、いたずらっ子にまでなってくれました。
来てくれてありがとう。



「やあ！」

中野 チトセ様

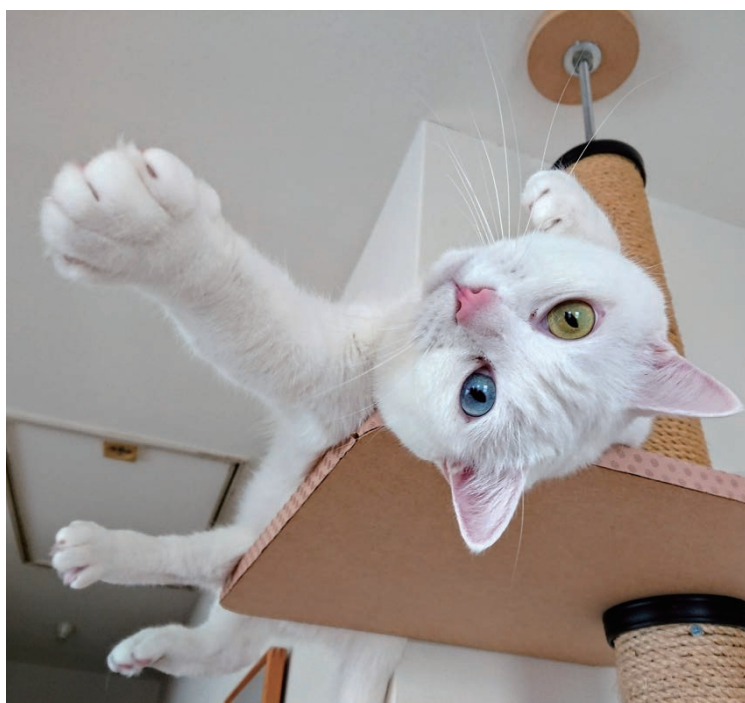
生後3ヶ月くらいの時に保護され、うちのメンバーになりました。
当時は、首に何かの生き物に襲われたような大きな傷があったり、
ノミみみれで、ちっちゃくて細くて、とても心配でしたが、
今ではお喋り好きのまん丸ボディに育っております。
動物の生命力ってすごいですね。



「にゃんこの木」

福永 真理様

2年半前のある夜、息子が土砂降りの雨の中、電信柱の横でずぶ濡れになって震える子猫を発見しました。
一晩添い寝して次の日の朝一番に病院へ連れて行き、生後2ヶ月半ぐらいで体重400gしかありませんでした…
それは私を変えてくれた大切なきっかけでした！
2匹目の里親にもなり、TNR活動されている先輩に出会い、私も殺処分ゼロの世の中を目指して活動しています。
今ではレスキューした子供たちがいっぱい、賑やかな大家族になりました！



森田恭通 (もりたやすみち) / 審査委員長

デザイナー / GLAMOROUS co.,ltd. 代表
1967年大阪生まれ。1996年、森田恭通デザインオフィスを設立。
2000年6月にはGLAMOROUS co.,ltd.としてスタートを切る。
2001年の香港プロジェクトを皮切りに、ニューヨーク、ロンドン、上海など海外へ活躍の場を広げている。
インテリアに限らず、グラフィックやプロダクトといった幅広い創作活動を行っている。
2010年10月オープン「セントレジスホテル大阪」内のレストランのインテリアも手がける。
Best of Year Awards 2009 など、受賞歴多数。
夫人の大地真央さんと保護した猫を含む6匹の猫に囲まれて、猫三味の日々を送る。

《総評》
現在コロナにより私たちの生活は一変し、このような大変な状況下で、日々不安を感じる中、今年も多く素晴らしい写真を拝見し、温かな気持ちになり、とても癒されました。
このように犬や猫たちは私たちに癒してくれる、そして元気になってくれる、私たちにとても大事な存在だと改めて感じました。
人の大切なパートナーでもある彼らを守りながら、共に生きていけるよう、より多くの方にこの活動が広がっていくことを願っています。

桂文枝 (かつらぶんし) / 特別審査委員

上方落語協会会長、昭和41年関西大学在学中に桂小文枝に入門。
ラジオの深夜番組で若者に圧倒的な支持を得る。
以降、TV・ラジオと数々の番組の司会を担当。
昭和56年「創作落語」を定期的に発表する「落語現代派」を旗揚げ、現在までに200作以上の作品を発表。
昭和59年・平成15年に2度の文化庁芸術祭大賞受賞。
また平成15年第6代目の上方落語協会会長に就任。
上方落語の定席「天満天神繁昌亭」建設に取り組み、平成18年9月、戦後六十年ぶりに大阪に落語専門の寄席が復活。
創作落語のなかにも犬や猫を多く取り入れるほどの無類の動物好き、夫人の河村真由美さんは、飼い主のいない猫の世話をする猫ヘルパーとして活躍中。



八二一 (はにはじめ) / 特別審査委員

男女二人組の写真家ユニット。
来秀則 (らいひでのり 12月14日生まれ) と藤原なつみ (ふじわらなつみ 7月3日生まれ) の夫婦。
ペット写真の講師としても有名で、「おしゃれ工房」(NHK教育テレビ)をはじめ、数々のテレビ、雑誌に出演。
近鉄文化サロン阿倍野、NHK大阪文化センターにて写真講師を勤めるかたわら、「猫びより」(日本出版社)等にも連載を持つ。
青心社のはっちゃん写真集シリーズ、はっちゃん日記シリーズの他、講談社の『はっちゃんのデジカメ! 写真ドリル』、写真絵本『はっちゃんのにちじょう』、
『はっちゃんのへんがお』、竹書房『はっちゃんだ!』、外猫の写真集『君のニャは。』(ワニブックス)など。
無敵のニャンドルはっちゃんは日本を代表するTNRみみ先Vカット猫として、TNR活動の普及啓発に大活躍中。

《総評》
今年の作品は、各部門全体を通して構図が非常に安定しており、絵になる作品が多かったです。
ワンコ部門では、季節感のある背景や美しい光を捉えた作品が多く、屋外ならではの写真のよさを活かしていたと思います。
ニャンコ部門では、背景をすっきりとさせたポートレート作品が目立ちました。
ごちゃごちゃしがちな室内でも、布を使ったり背景をぼかしたりと、工夫されていると感じました。
さくらねこ部門は、ローアングルで撮られた作品が多く、ストレートで力強い印象を受けました。